

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

Growing

March 2017
Vol. 55
毎月10日発行

【本 部】
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467

私立入試結果、無事全員合格。 おめでとう!そして、よく頑張りました。 本年度私立入試から予測できる【入試対策】とは



高木 秀章(塾長)

去る2月10日、これまで以上に寒さを感じ、インフルエンザが猛威を振るう中、私立高校入試が実施されました。入試を受験された皆さん、保護者の皆様、お疲れ様でした。当塾の塾生は、これまでの頑張りが実り、全員無事合格しました。やはり合格と不合格では、一線を画することであり、全員が合格してくれたことで、私達も安堵した次第です。

さて、今回のGROWINGでは、本年度の私立入試から予測できる入試対策について、お伝えします。

今年の私立入試の総括は、人気校と不人気校で合格の明暗が分かれたと言えます。近大附属はじめ、関大系列、常翔学園などの大学付属校や、交換留学に注力していることが話題となっている桃山学院高校などに人気が集。特に受験生が1,000人を超えた近大附属のS文理、桃山学院のS英数では、回し合格となり下位クラスでの合格となるケースが見られました。

これは、どのようなことかと申しますと、私立高校は、同レベル生徒間競争を想定していることで、合格レベルは全体中位(全体点数の約60%前後)が標準です。(例:500点満点で、300点以上)ところが、今年の人気校では、この中位とされていたレベルでは、受験者数と合格者数のバランスを維持できなくなり、結果的には、合格レベルが引きあがってしまったため、下位クラス合格というケースになったということです。つまり、入試は受験する年度の傾向で、合格レベルまでが変わってしまうということを再認識させられました。(例:500点満点で、400点が合格レベル)

このような僅差の入試では、制限時間内で得点できる問題を確実に正解し、ミスの少ない答案をいかに作るかが、合格を分ける鍵となります。

今回の入試は改めて、同レベルの生徒が集まる受験では、出来そうにない問題に時間を割くのではなく、自分のレベルにおいて正解しなければならない問題を確実に正解することの重要性、記憶や解法が曖昧になっている部分を、徹底して整理して記憶し、確実に得点に結びつける知識にしておくことや、本番で慌てないよう、事前に決めた時間配分と見直し時間を厳しく守り、カラダが覚えるまで練習を積んでおくことの重要性を問われたことになりました。

このような傾向を踏まえて、3月から中学部で毎時間行う、レベル別入試問題演習で、自分が解けなければならない問題レベルと、自分が解けない問題レベルの差を普段から意識し、制限時間内で問題を解く練習を日々重ねることは、いかに重要であるかが良く分かります。授業では一人一人にストップウォッチを渡しますので、普段から時間を意識し、制限時間の中で見直しの時間も考慮し、問題に取り組むことが大切です。

また、間違い直しノートに誤答問題を集め、自分の言葉で解説や知識を整理してまとめ、実力テストや入試直前で復習できる状態を作っておくことは最後に大きな差となって現れてきます。間違い直しノートを丁寧に作ることが受験での得点力の差になることを覚えておいてください。

また、公立高校入試では、弱点箇所の徹底的な補強とミスの少ない答案作りを行うことは前提条件として、記述問題の出来不出来が合格を分ける要因となります。

今年度の入試であれば英語の複合問題(リーディングを1分した後、リスニングをし、その内容に対する意見を70~100単語でまとめる)自由英作文、国語の300字記述問題、数学の証明問題が記述で差が出る問題といえます。

もちろん、記述対策に関しては、今年度生も9月からの活用型対策講座を始め、文理学科講座や各講習会や通常授業など、様々な機会でも練習を重ねてきました。もちろん、受験直前まで連日、記述練習と添削を繰り返していきます。(各人のレベルに応じて、記述力向上を指導します)

記述問題を制限時間内で解くには相当なスピードが必要です。国語の300字の記述問題は入試本番では8分程度しか時間を割くことができせん。構成を2分で考え、手直し、誤字脱字の訂正に2分を取るならば、実際に書く時間は4分程度。考えながら書くことを想定すると1分あたり100字~120字程度の早さで書けなければ間に合わないことになります。受験では早く構成を考え、早く書き、早く手直しをする力が問われます。

また、私立・公立問わず受験全体(大学入試も含めて)において文章量が増加傾向にあります。公立高校入試英語のC問題では、今年度より1分あたりに読む単語量が2.7倍に増加します。もちろん塾でも、活用型問題対策講座や、受験対策英語講座など様々な対策を行っていきませんが、更に家庭では天声人語の要約や自分の意見をまとめるなど、早く読み、早く書くトレーニングを普段の学習に取り入れることが必要不可欠となります。

これから受験生になっていく皆さんと、残り1ヶ月の最後の追い込みをかけている受験生、そして、サポートする保護者の皆様、更に私達自身に言い聞かせる意味も含めて、受験で最も大切なことを書いておきたいと思います。

それは「最後まで諦めないこと」です。

私が25年間、生徒の指導をしてははっきり言えることは、成績は受験の直前まで伸び続けるということです。最後まで諦めたり、油断する生徒と、試験終了のチャイムが鳴り終わるまで、自分の力を出し切ろうとする生徒では、受験の結果やその後の高校生活の過ごし方が全く違います。今年も、私立専願の生徒が入試1週間前で合格点に50点足りないところを、最後の最後まで弱点対策をやり抜くことで見事合格を勝ち取る様子を目の当たりにしました。

もう一度言います。最後に物を言うのは、「諦めない気持ち」です。そして、その覚悟を引き出しサポートするのが私達、塾講師の仕事です。皆さんが受験を通して身につけた「努力と工夫」を続ける力は、必ず将来の皆さんを支える力になります。最後の最後まで、精一杯、子供達とご家庭に寄り添いサポートいたします。

CLASSROOM REPORT 教室レポート

変化する受験に対応する 基礎力を育むため 小学部でも様々な工夫を行っています。

川西 久志 (今福教室)



日増しに暖かくなり、早春の息吹を感じるこの頃です。今回は私が指導している今福教室小学部の様子を紹介しながら、新しい受験制度に対応できる基礎力を育成するカイチ小学部の取り組みについてご紹介します。

小学部の算数は2か月に1度、「難問に挑戦」というイベントがあり、解ければ点数券がもらえます。問題は中学入試から論理的思考を試すものを選別しています。複雑な計算はほとんどなく、多くは問題をよく読み、問題の情報を丁寧に組み合わせながら粘り強く考える問題です。教科書ではあまり問われない傾向の問題で、見方を変えれば簡単に解ける問題や、簡単に見えても解法に気づきにくい問題など、生徒達はああでもないこうでもないと思わずに楽しそうに挑戦しています。難問の時期になると、「先生、難問はまだ一?」と楽しみにしてくれている生徒がいます。

国語では昔の有名な古典の暗記に挑戦し意味を考えたり、文学作品のあらすじを文章で説明するなど、将来の高校入試の記述を意識した指導を取り入れています。最初は、全然書けなかった生徒達も1年経った今では、多くの生徒が書けるようになりました。また、文章読解で分からない言葉は辞書を引くことを徹底させ語彙力が付くよう指導しています。ある生徒の辞書が付箋で一杯になっていたの

理由を聞くと、一度調べたものはマーカーを引き、付箋を貼っているそうです。付箋だらけの辞書は、努力の証。素晴らしいと思います。

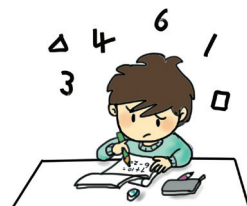
理科は3ヶ月に1度の実験の他、2か月に1度、課題に対して推論し話し合う授業を取り入れています。先日の授業での小6のテーマは「てこの原理を使っている身近な道具は何か。また、どのようにてこを使っているのか話し合おうでした。最初は教科書に出てくる、はさみ、くぎ抜きから、先生の「てこを使った道具にはどのような特徴があるのか」という質問があり、「小さな力で大きな力を生み出せるもの」という答えを生徒の一人が答えたことで、缶切りや水道の蛇口やドアノブなど新たな道具が出てきました。ただ、シーソー型でこしか知らない生徒達は、蛇口やドアノブなど回転させるこれらが、本当にてこと言えるのかと言うところで残念ながら時間切れ。それについて今度は調べてきてもらおうと考えています。

社会では、4・5年生を中心に地図学習を重視しています。地図学習の最大のメリットは、周りの地名や特産物が目に飛び込んでくることです。ニュースや新聞で見たり、聞いたりしたことのある地名はこんな所にあったのか。実はこの作物が取れるのは、近くに大きな山が

あり、そこから流れてくるきれいな水のおかげだったなど、地理の勉強は地形や気候、交通などと密接な関わりをもっています。地図学習を通して、地理は単に地名や特産物などを暗記する教科ではなく、私達の生活と密接に繋がり、様々な物事との関係性の中で理解する教科であることを知って欲しいと考えています。

今回は紙面の都合で英語指導については書けませんでした。小学部では、上記のように、これからの受験で求められる、「思考力」「判断力」「表現力」の基礎を、小学生時代から身に付けられるよう指導を行っています。

しかし、今までのように、知識や公式を覚える勉強が必要なくなったわけではありません。自分の考えを発表するためには、その基になる知識は必要です。今まで通り、公式や知識の理解や暗記の勉強も大切にしながら、上記のような知識を応用する学習にも取り組みたいと思います。



Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

高校受験対策英語講座 ～未来を見据えた英語指導改革～



熊谷 真宏 (今福教室)

今年の4月、カイチでは中学生を対象とした高校受験対策英語講座を開講します。この講座の最大の狙いは、ここ数年で難化し続けている高校入試の英語問題を解くための実力をつけることです。大阪府の高校入試の英語の問題にはA・B・Cの3つのレベルの問題があり、難関校であれば殆どの学校が最も難しいC問題を採択しています。ご存知のように、平成29年の入試からこのC問題の内容が大きく変更されました。具体的には、リーディング問題において設問も全て英語になり、1分間あたりに読む語数が35語から95語の2.7倍に増加したこと。リスニング問題の試験時間が15分から25分になったこと。リスニング問題に英語の記述問題が追加されたこと等が挙げられます。これにより、従来の入試ではリーディングの配点が大きな割合を占めていたのに対し、新しい入試ではリーディング・リスニング・ライティングの3技能が均等化され、より高度な英語力が求められるようになりました。これらの問題は大人の我々であっても解くのに非常に苦勞するレベルであり、中学3年生でこのレベルに到達するためには、上記3技能を伸ばしていくことが必要不可欠ですが、従来の学校や塾における英語指導だけでは到底間に合いません。そこでカイチでは高校受験対策に特化した講座を設けることで、子供達がこの大きな壁を乗り越えるためのサポートをしていきます。

今回開講するこの英語講座では、従来の日本人講師ではなく、外国人講師によるオールイングリッシュ指導となります。入試で25分間リスニングに集中し続けるためには、普段から意識的に英語を聞いて慣れておくことが欠かせません。しかも、それはネイティブレベルのスピードでなければ意味がないのです。これにより、日本語で考える時間を与えず、英語を英語のまま理解する習慣がつくようになり、英語反射力も鍛えられます。この力

は長文読解の際にも非常に大きな効果を発揮します。

オールイングリッシュを土台として、授業内ではアメリカの中高校生向けのニュース番組や英字新聞などを取り上げ、それについての自分の意見を英語で発表するスピーチトレーニングを行ったり、耳で聴いた英語の内容を書き取るディクテーション等を行います。これにより、より高度なリスニング力とライティング力の強化を図ります。また、英語日記の添削指導なども充実させ、高校入試のみに留まらず、社会人になってからもずっと「使える」英語力の養成を目指します。

この講座を担当するのは、フィリピン出身のマーク・ソリアノ先生。フィリピンでは4年間学校で英語と音楽の指導にあたり、来日後は

インターナショナルスクールや中学校で指導していた経験があります。講師の採用に関してはおそらく塾業界一？厳しい目を持つ塾長が、「この先生なら子供達を必ず伸ばしてくれる！」と確信した程の先生です。音楽が大好きで情熱的な一面も見せる素晴らしい方なので、子供達からもぎっと慕われることと思います。マーク先生に会える日をぜひ楽しみにしててください。

4月からの開講に先駆け、3月にはトライアルとして無料体験講座も予定しております。人数に限りがございますので、この機会に奮ってお申し込みください。皆さんの未来を見据えたカイチの本気の英語指導をぜひ体感してくださいね！



Mark Ivan Soriano
(マーク アイバン ソリアノ)

I'm from Philippines. Right after graduating from the university I started teaching English and Music in Elementary school. I got interested in Japanese education and I decided to work as an ALT in Japan teaching English to Japanese children. The Japanese education system in Japan gives equal opportunity to all student but what surprised me is the English skill of the children is low. Learning English is very important in our daily life. English is the global language. It is very important to the young generation or to the children to start learning English for their future. I will try my very best to help , teach and support the children to learn English.

私はフィリピン共和国出身です。大学卒業後、小学校で英語と音楽の教諭として子供達を指導する中で、日本の学校教育に興味を持つようになりました。来日後は奈良県の公立小学校のALTを担当する中で、日本の平等で行き渡った学校教育制度と、それに反する子供達の英語力の低さに驚きました。国際化社会の中で日本の子供達にとっても、英語の習得は自身のキャリアに関して重要な意味を持つようになってきました。私は日本の子供達に受験はもちろん、将来使える英語指導ができるようベストを尽くしたいと考えています。

COLUMN: 今まで本当にお世話になりました。そして、ありがとうございました。

岡本 泰行 (今津教室)



私のこの約10年にわたるカイチでの日々は長いようで、とても短く感じます。カイチに来た頃は私も20代で、この会社でやっていけるのだろうかという不安もありましたが、カイチの生徒や保護者の方々に温かく受け入れていただき、今の私があります。今回、実家の都合により私が大阪を離れなければならない、カイチを退職することになりました。

この文章を書きながら今までのことが思い出されて涙が出そうです。私は、カイチに来るまで飲食店の店長や、進学塾の講師をしてきました。いずれも体調を壊すなどして、そんなに長くは続きませんでした。そんな中で、約10年もの期間、このカイチにいたることができたのは、先にも述べたように、本当に良い生徒に恵まれ、保護者の方々に良くしていただいたおかげだと思います。

カイチでの思い出としては、私が来た頃は、まだ、関目教室が開講して間もない頃で、諸口教室

や今津教室などはまだなく、今福教室も本部がありませんでした。そんな中から、カイチがこんな風に大きくなっていく過程を恭子先生や、川西先生、小田先生達と経験できたことは辛い事もありましたが、良い宝物になったと今は思います。また、HPにあるように「(定期テストの)格差王」と呼ばれ(笑)自分自身で、王から引きずり降ろされないように、指導案を書き、板書計画を立て、授業が終われば夜中に反省し、改善点を考え、また、授業内で感じた生徒達にわかりやすい表現を書きとめ、授業ノートがどんどん分厚くなっていきました。

また、私が常に大切にしていたことが、解き方の暗記ではなく「なぜそう解くのか?」の根拠を常に考えられるようになって欲しいということでした。授業中に「答えの道筋は解答を見ればわかる。ただ、なぜその道筋を選択することができたのか。そこに重点を置いて考えなさい」と言い換えれば「なぜ、その方法では答えまで辿り着かないのかを考えなさい」と話してきました。良ければ数学を学ぶ際に、参考にしてください。

また、カイチはイベントが多くあり、遠足やクリスマス会などは、バリバリの進学塾の経験しなかった私にとっては非常に新鮮でした。特にジュニア

先生と羽目を外しすぎたビンゴ大会など、非常に思い出に残っております(笑)。こんな先生達がいるのかと、わくわくしたのを覚えています。本当に心から、子供達のことを好きなのだと思わせてくれる塾でした。そんな塾を離れるのは本当に寂しいです。

生徒の皆様へ

私は生徒の皆さん全員を志望校合格まで、見届けたかったのですが、途中で離れることになり申し訳ございません。将来は、みなさんの意思一つで、良くもなり、悪くもなります。それならば、良い方に向くように、努力をし続けてください。皆さんの将来が良いものとなるように願っています。本当にお世話になりました。今までありがとうございました。



板東の ちょっと TEACHER'S VOICE

イイ話

板東 亨 (今津教室)

今の「努力」が未来の「自信」へと繋がる

今回のコラムは「努力」について2つの種類と2つの方法という観点でお伝えします。努力について知ること、勉強だけでなくクラブや趣味において、取り組み方や姿勢が変わり、成果が大きく変わるかもしれません。新学年を迎える今だからこそ、是非知って欲しいと思います。

幸田露伴は著書の「努力論」の中で努力には「直接の努力」と「間接の努力」の2つの種類があると述べています。

「直接の努力」とは、さしあたっての努力で目の前のことに全力を尽くすことです。皆さんの勉強に例えると、定期テストに向けての努力です。それに対して「間接の努力」とは、将来のに向けての準備を行う努力、勉強ならば、学力の地力である「読み」「書き」の力を伸ばすために行う、読書や天声人語の要約、社説に対する自分の意見をまとめるなどのトレーニングがこれに当たります。

そして、「直接の努力」で問題を乗り越えられない場合、その原因は「間接の努力」の不足であると露伴は述べています。日々の学習では、テストに追われ、「直接の努力」に終始してしまうかもしれません。しかし、「間接の努力」による基礎学力があるからこそ、短期集中で行う「直接の努力」で成果を出すことが出来ます。

「努力」の方法として、「得意を伸ばす努力」や「苦手を克服する努力」があります。勉強をしても、苦手の克服ばかりでは勉強するのが苦痛になってしまいます。苦手教科の後は、得意教科を組み合わせる学習するのも効果的です。

また、受験では5教科の合計点で競うわけですから、得意教科で何点取って、苦手教科では何点取る。そのためには、得意教科はこのレベルまで、苦手教科はこのレベルまでと計画的に学ぶことも大切になります。そして、「得意を伸ばす努力」と

「苦手を克服する努力」それぞれに対して、直接、間接の努力を行うことで、努力が効率的に成果に結びつくようになります。

最後に、努力について、最も大切なことを伝えてこの話を終わりたいと思います。

それは「努力を続ける工夫を見い出す」ことです。

「努力を続ける」とは、よく言われることですが決して簡単なことではありません。努力を続けるために、集中しやすい時間帯を見つける、勉強したらおやつなど簡単なお褒美を自分に用意する、とりあえず20分時間を測って取り組んでみるなど努力を続ける工夫が必要です。

今回は、皆さんに勉強面での努力について書いてきましたが、実はこの努力に日々向き合わなければならないのは私達大人も同じです。私自身、この文章を皆さんに宛てて書きながら、自分自身は努力できているのかと考えさせられました。

「受験」は、合格を目指すことはもちろんですが、社会で逞しく生きるための「努力を続ける姿勢」を培う機会でもあります。そして、その努力が成果として実を結んだとき、努力に裏付けられた、本当の「自信」が身につきます。

私も皆さんの努力が第一志望合格という実を結ぶように、共に努力を続けたいと思います。1年間宜しくお願いたします。

カイチからの お知らせ

■3月9日(木)新年度クラススタート

■3月9日(木)は公立入試です。受験生の皆さんガンバレ!

■3月17日(金)は公立入試合格発表日です。

■3月18日(土)入試説明会(新中3対象)

■3月24日(金)~3月30日(木)は春期休塾日です。

■3月31日(金)より春期講習会スタートです。